

高齢者へのトータルかつ継続的な支援の方法をリアルに学べる！



ストーリーとQ&Aでわかる 実践 ホームロイヤー

任意後見、見守り、緊急時対応、財産管理、
アドバンス・ケア・プランニング、遺言、死後事務、信託

日本弁護士連合会 日弁連高齢者・障害者権利支援センター 編

2023年11月刊 A5判 472頁 定価5,610円(本体5,100円)
978-4-8178-4926-7 商品番号:40975 略号:ホーム

- 第1編では、「おひとりさま高齢者」と「障害者の親なき後」の支援のストーリーを収録。契約の検討から終了までを追う詳細なストーリーで、制度の活用場面がわかる。実務に役立つ書式も収録。
- 第2編では、任意後見、アドバンス・ケア・プランニング、遺言、見守り、緊急時対応、死後事務、信託など、ホームロイヤーの実務に関わる諸制度の基礎知識を網羅。ホームロイヤーとしてトータルかつ継続的な支援を行っていくために、知っておくべき相続税や福祉制度の基礎知識も解説。
- 第3編では、ホームロイヤーが実務で直面する悩ましい問題をQ&Aで解説。具体的な事案への対応方針を示す。

2つのホームロイヤー・ストーリー

おひとりさま高齢者の支援

花野ちえさん(79歳)は現在一人暮らしをしている。ずっと仕事一筋のおひとりさまで、家族は施設に入居している養母のウメさん(96歳)のみ。「自分にもしものことがあったらウメさんはどうなるのか」「自分の老後や死後のことはだれに頼めるのか」が最近不安になってきた。

成年後見支援センターに相談したところ、海辺まり弁護士を紹介された。彼女の優しくして真摯な姿勢に好感を持ったちえさんは、海辺弁護士を「ホームロイヤー」として契約を結ぶことに。

ライフプランノートの作成を通じて、任意後見や公正証書遺言など、ちえさんの願いを実現するために海辺弁護士はさまざまなサポートを提案する。



障害者の親なき後の支援

青野正一さん(76歳)と妻・和子さん(74歳)との間には、自閉症と知的障害を持つ息子・正太郎さん(51歳)がいる。年長的に正太郎さんの「親なき後」のことが気がかりになり、情報収集をするうちに「親なき後の勉強会」を通じて山木真一弁護士に出会う。

朗らかで誠実そうな山木弁護士に「ホームロイヤー」として正太郎さんの成年後見の相談に乗ってもらうことにした正一さん。さらに姪・未来さんの協力を得て、民事信託を活用した、正太郎さんの今後をサポートする計画が始動した。



設問抜粋(全32問)

- Q2 見守りの必要性・工夫
- Q3 緊急入院に関する支援
- Q7 急変の可能性があるがん患者への法的支援について
- Q8 外国人からホームロイヤーの依頼があった場合
- Q9 任意後見受任者を複数人とする場合
- Q12 任意後見契約の代理権目録に法定後見の申立権を入れる場合
- Q13 任意後見契約の自宅住所・戸籍姓問題とは
- Q14 認知症の症状がある本人との任意後見契約の解除を認めるべきか
- Q15 本人が任意後見契約の発効を拒否している場合の対応
- Q19 任意後見法10条1項における「本人の利益のため特に必要があると認めるとき」
- Q20 民事信託と任意後見の併用
- Q21 遺言書の付言事項における死後事務の定めと死後事務委任契約は両方必要か
- Q22 委任者の死亡後の相続人による死後事務委任契約の解除
- Q23 遺言執行者の業務と手続の流れ、遺言執行者による寄付先の選定
- Q25 遺言がない場合の遺産分割協議と配偶者居住権
- Q27 遺言執行者と遺留分侵害額請求
- Q29 遺言執行者の辞任と相続財産清算人の選任申立て
- Q30 障害のある者に、死後の生活資金として少しずつ財産を渡したい場合

